

年頭の所感



塩谷 立

(文部科学大臣)

強く明るい日本の未来のために

平成二十一年の新春を迎え、謹んで新年のご祝辞を申し上げます。

私は、昨年九月に発足した麻生内閣において、文部科学大臣を拝命いたしました。現在、我が国は百年に一度の世界的な経済危機に直面し、雇用をはじめ国民生活に直結する数々の課題を抱えています。また、世界に目を向ければ、気候変動や資源・エネルギー問題、貧困問題など、地球規模の課題が山積しています。これら

課題の解決には、社会の担い手となる人材の育成とイノベーション創出、そしてその基盤となる教育や科学技術の振興が不可欠であります。私は、このような信念のもと、本年も、文部科学省が担当する教育、科学技術・学術、スポーツ、文化の各般の振興を通じ、「強く明るい日本」の実現に全力で取りくんでまいります。

昨年は、約六十年ぶりに改正された教育基本法に基づき、初めての教育振興基本計画を策定しました。計画では、目指すべき教育の姿を明らかにするとともに、その実現のための具体的施策を体系的に示したところであります。今後、計画を着実に実行することが、私の最大の使命と考えております。

なかでも、「読み、書き、そろばん」といった基礎学力の定着、道徳教育の充実、体力の向上、職業観・勤労観の育成など、子どもたちに「生きる基本」を徹底していくことが重要と考えます。新しい小中学校学習指導要領が本年四月から算数・数学、理科を中心に一部先行して実施され、また高等学校及び特別支援学校の学習指導要領も改訂を目前に控えています。今後、教職員定数の改善や、外部人材の活用、教材作成への支援など、教員が子ども一人ひとりと向き合う環境をつくりつつ、指導要領の円滑な実施に努めてまいります。

また、昨年は、大分県において教員採用に関わる汚職事件が起り、公教育への信頼が大きく揺るぎました。

助金など競争的研究資金の拡充、世界最高水準の研究拠点の整備に努めるとともに、産学官連携の強化や地域の活性化にも資する知的クラスターの創成等に努めます。

ライフサイエンスやナノテクノロジーなど各分野の研究開発については、安全・安心の確保など社会・国民のニーズの高いものや、国際競争力の強化、国際社会への貢献に資するものなど、選択と集中を図りながら戦略的に推進します。宇宙輸送システム、次世代スーパーコンピュータ、海洋地球観測探査システムなどの国家基幹技術の研究開発についても、着実に推進します。また、「科学技術外交」を強化するため、地球規模の課題への貢献や先端分野での戦略的な国際科学技術協力の推進など、科学技術の国際活動を戦略的に推進します。

昨年の北京オリンピックでの日本人選手の活躍は、国民に夢と感動を与えました。日本人選手が世界の檜舞台で更に活躍できるよう、トップレベル競技者の育成・強化に努め、二〇一〇年のバンクーバー冬季オリンピックに備えるとともに、二〇一六年オリンピックの日本開催を目指して、招致活動を積極的に支援します。また、誰もがスポーツに親しめる環境の整備を進め、生涯スポーツ社会の実現を図るとともに、野外活動の振興や家庭の芝生化の推進など、子どもが「外に出る」活動への支援を強化してまいります。

文化芸術は人々の心を豊かにし、社会を明るくするだけではありません。文化芸術が持つ創造性は、産業振興や地域活性化に重要な役割を果たしています。経済に逆風が吹いている今こそ、戦略的に文化芸術の振興に取り組む、「文化芸術立国」の実現を目指してまいります。

以上、文部科学行政に対する国民の強い期待を重く受け止め、果断に諸般の課題に取り組んでまいり所存です。皆様のご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願いいたします。